

- 令和7年度は森林E S D事業として、従来の小学校での事業に加え、今後の事業拡充を目指して中学校で森林E S Dのモデル授業を行い、持続可能な社会に活躍できる人材の育成や、森林保全や林業に関する理解向上につなげた。
- 市職員の名札の木製化を行い、地域産木材の認知を高めるとともに、市職員の環境意識向上につなげた。

□ 事業内容

1 森林E S D事業

- ・ 森林E S D授業を小学校12校（森林体験プログラム小学校10校・授業支援2校）で実施
- ・ 森林E S Dモデル授業を中学校1校で実施

【事業費】8,315千円（全額譲与税）

【実績】参加児童生徒数704人

2 市職員木製名札作製事業

- ・ 市職員の名札を地域産木材「おおさか河内材」で作製

【事業費】462千円（全額譲与税）

【実績】名札作製枚数800枚（予備を含む）



事業1：中学校での森林E S D事業（写真左）
事業2：作製した木製名札（写真右）

□ 取組の背景

- ・ S D G s の取組みが求められる中、令和元年度から次世代に活躍する児童生徒に森林を活用したE S D授業（Education for Sustainable Development）を提供している。
- ・ 府内最大の人工林面積を有する本市では、森林と木材利用の循環を進めるため、おおさか河内材の認知向上や利用促進を図る必要がある。

□ 工夫・留意した点

- ・ 森林E S D事業は委託形式を取り、各学校の負担を極力少なくした。また森林林業に関わることを進路の選択肢に加えてもらえるよう、中学校でのE S D事業への拡大を目指し、モデル事業を行った。
- ・ 名札作製において、行程の一部を福祉事業者に依頼することで林福連携の実現につなげた。

□ 取組の効果

- ・ 当初は2校のみの実施であったが、令和7年度は小学校12校で森林E S D事業を行うことができ、多くの児童生徒に森林E S Dを提供できている。アンケートでは実施校から高い満足度を得ている。
- ・ 名札木製化では、市職員をおおさか河内材P Rアンバサダーに位置づけ、木材の良さを広く周知するきっかけとなっている。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：38,729千円	②私有林人工林面積（※1）：5,006ha	
③林野率（※1）：68.6%	④人口（※2）：101,692人	⑤林業就業者数（※2）：10人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より